

# 対象事業箇所別調書

所 管 局	住宅都市局			
事 業 名	都市計画道路3・3・14号椿町線		事業種別	街路事業
<b>事業概要</b>				
ア、事業箇所	中村区太閤一丁目～同太閤二丁目			
イ、計画面積・延長及び幅員等	延長：555m、幅員：30～36m			
ウ、事業採択年度	平成12	年度	エ、全体事業費	79.4 億円
オ、事業の上位計画	「名古屋市総合計画2018」・「名古屋市都市計画マスタープラン」・「都市再生緊急整備地域の地域整備方針」			
<p>&lt;事業のあらまし&gt;          本路線は、混雑が激しく、交通が輻輳する名古屋駅周辺の幹線道路網の充実を図るとともに、鉄道による南北の地域分断を解消し、名古屋駅と市南西部の交通需要に対応する路線である。鉄道以南はささしまライブ24土地区画整理事業で、鉄道以北については、街路事業によりそれぞれ整備を進めており、本路線の整備により名古屋南西部方面から名古屋駅への直接アクセスが可能となるほか、「国際歓迎・交流拠点」の形成を目指してまちづくりを進めている「ささしまライブ24地区」へのアクセス性が向上する極めて重要な路線である。</p>				
<b>事業の必要性について</b>				
<p>&lt;事業を巡る社会経済情勢等の変化&gt;          名古屋駅周辺では平成28年度までにJRゲートタワーをはじめとする高層ビルが相次いで完成し、ささしまライブ24地区においても、土地区画整理事業による宅地整備や基盤整備を進められ、地区内ではグローバルゲートを始めとした民間開発による建物の建設が完了し、平成29年10月にまちびらきが行われた。          また、平成25年7月には特定都市再生緊急整備地域である「名古屋駅・伏見・栄地区」について、当該事業区域を含む形で地域が拡大されたことにより、名古屋の国際競争力の強化を図るためにも本道路の整備の必要性が高まった。</p>				
事業の投資効果	費用便益分析(B/C)		総便益(B)	総費用(C)
	1.1		80.28 億円	75.84 億円
進捗率(平成29年度末)	100%		完了年度	平成29年度
<b>事業の進捗の見込み</b>				
<p>&lt;阻害要因の有無&gt;          なし</p>				
<p>&lt;今後の見通し&gt;          平成29年度完了</p>				
<b>コスト縮減方策・代替案立案について</b>				
再生材の利用、発生土の流用等によりコスト縮減を図り、より効率的、経済的に事業を進めた。				
<b>地元の意見などその他特記事項</b>				

# 対象事業箇所別調書

所 管 局		住宅都市局	
事 業 名	名古屋都市計画事業ささしまライブ24土地区画整理事業	事業種別	土地区画整理事業
<b>事 業 概 要</b>			
ア、事業箇所	ささしまライブ24土地区画整理事業区域内(中村区平池町4丁目他)		
イ、計画面積・延長及び幅員等	22.1ha、建物移転19戸		
ウ、事業採択年度	平成 11 年度	エ、全体事業費	374.5 億円
オ、事業の上位計画	「名古屋市総合計画2023(2018)」・「名古屋市都市計画マスタープラン」・「都市再生緊急整備地域の地域整備方針」		
<b>&lt;事業のあらまし&gt;</b> ささしまライブ24地区は、名古屋駅の南に位置する旧国鉄笹島貨物駅跡地と中川運河堀止船だまり周辺を含む22.1haの貴重な大規模未利用地である。従前の貨物駅に代表される物流中心の土地利用から、商業・業務を中心とした土地利用への転換を図るため、平成11年度に本市施行の土地区画整理事業に着手した。現在は建物移転や都市計画道路椿町線を始めとした道路、公園等の基盤整備工事が進捗するとともに、平成19年度に市有地・保留地において実施した開発提案競技によるプロジェクト等の民間活力による土地利用が進められ、地区の開発コンセプトである「国際歓迎・交流拠点」の形成が実現しつつある。			
<b>事業の必要性について</b>			
<b>&lt;事業を巡る社会経済情勢等の変化&gt;</b> 令和9年度のリニア中央幹線開業を見据え、名古屋大都市圏の中核都市として、圏域をけん引する国際競争力を有する都心部の形成を目指す名古屋駅周辺では、さまざまな再開発計画が進められている。ささしまライブ24地区においても、平成19年度に実施した開発提案競技によるプロジェクトであるグローバルゲート及び愛知大学が完成したほか、その他の民間所有の宅地における土地利用も開始され、国際的・広域的な拠点機能・交流機能を持った都心部の形成が実現しつつある。こうした状況を踏まえ、「国際歓迎・交流拠点」の形成をめざした官民連携によるまちづくりをより一層推進するためには、土地区画整理事業による道路(都市計画道路椿町線、笹島線、日置中野新町線)・公園などの都市基盤整備を早期に進めることが必須となっている。			
事業の投資効果	費用便益分析(B/C)	総便益(B)	総費用(C)
	1.3	257.73 億円	198.01 億円
進捗率(令和2年度末見込み)	96.8%	完了予定年度	令和7年度
<b>事業の進捗の見込み</b>			
<b>&lt;阻害要因の有無&gt;</b> 建物移転交渉の難航			
<b>&lt;今後の見通し&gt;</b> 建物移転に関しては、計画的に移転が進むよう移転補償交渉を行い、日置中野新町を始め、残る都市基盤施設について事業期間内での完成を目指す。 また、中川運河堀止船だまり周辺の整備による水辺空間の創出など、ささしまライブ24地区の魅力向上につながるまちづくりをすすめる。			
<b>コスト縮減方策・代替案立案について</b>			
再生材の利用、発生土の流用等によりコスト縮減を図り、より効率的、経済的に事業を進めていく。また、エリアマネジメントの一環としての定期的な道路清掃(落ち葉清掃等)の実施による維持管理費の削減を検討する。			
<b>地元の意見などその他特記事項</b>			
「ささしまライブまちづくり協議会」において、本格的なエリアマネジメントの実施を検討中			

# 対象事業箇所別調書

所 管 局		住宅都市局		
事 業 名	名古屋駅周辺地下公共空間整備		事業種別	鉄道駅周辺施設
<b>事 業 概 要</b>				
ア、事業箇所	中村区名駅南一丁目、二丁目、四丁目			
イ、計画面積・延長及び幅員等	延長：約390m 幅員：8.5m			
ウ、事業採択年度	平成24年度	エ、全体事業費	135.6億円	
オ、事業の上位計画	「名古屋市総合計画2023」・「名古屋市都市計画マスタープラン」・「都市再生緊急整備地域の地域整備方針」・「名古屋駅周辺まちづくり構想」			
<b>&lt;事業のあらまし&gt;</b> 名古屋駅地区を南北に縦断する名駅通は、歩行者交通が多く、本市を東西に貫く広小路通と交差する笹島交差点においては、集中する自動車交通と歩行者との交錯がかねてより都市構造上の課題となっている。 また、名古屋駅周辺では、駅前を中心に大規模の開発が進むとともに、リニア開通に向けて新たな開発も見込まれており、さらに、既に動き出した大規模開発も見られる名駅南地区の高度利用の進行等により、笹島交差点以南における名駅通の歩行者交通が増加するため、これらの交通需要に対応する新たな歩行者空間を整備する必要がある。 名古屋駅周辺地下公共空間は、笹島交差点から下広井町交差点を経て、ささしまライブ24地区・名駅南地区へ至る地下歩行者空間を整備し、今後増加する歩行者交通に対応するとともに、名駅通周辺を地上、地下の重層的で連続性を持った歩行者空間とすることで、移動性、安全性、快適性に優れた歩行者ネットワークを形成し、周辺地域の開発誘導を目指している。				
<b>事業の必要性について</b>				
<b>&lt;事業を巡る社会経済情勢等の変化&gt;</b> リニア中央新幹線開業を見据え、名古屋大都市圏の中核都市として、圏域をけん引する国際競争力を有する都心部の形成を目指す名古屋駅周辺では、さまざまな再開発計画が進められている。ささしまライブ24地区においては、グローバルゲート及び愛知大学等の整備が完了したほか、その他の民間所有の宅地における土地利用も順次開始されてきており、国際的・広域的な拠点機能・交流機能を持った都心部の形成が実現しつつある。また、名駅南地区においても、低未利用地等の開発の動きが見られ、すでに着工・竣工したものもある。こうした状況を踏まえ、名古屋駅とささしま・名駅南地区の間に人の流れを作り、名駅周辺にリニアインパクトを波及させ、国際競争力をより一層強化するためには、地下公共空間の整備による心理的距離感の軽減、安心で安全な歩行者空間の確保が必要である。				
事業の投資効果	費用便益分析(B/C)	総便益(B)	総費用(C)	
	1.1	165.01 億円	155.22 億円	
進捗率(平成28年度末見込み)	—	完了予定年度	未定	
<b>事業の進捗の見込み</b>				
<b>&lt;阻害要因の有無&gt;</b> 出入口地権者協議の難航				
<b>&lt;今後の見通し&gt;</b> 地下公共空間整備は、民地に出入口を設置することから、地権者等関係者との交渉に時間を要しているが、引き続き協議を進め、早期の都市計画決定および工事着手を目指す。また、通路全体の賑わい創出及び沿道の民間再開発と連携した官民一体での賑わい創出について、検討・調整を進める。				
<b>コスト縮減方策・代替案立案について</b>				
当施設を整備するにあたっては、整備と維持管理を一体的に発注するPFI方式を導入を予定しており、維持管理を踏まえた効率的・効果的な整備が行われることで、施設の整備から維持管理まで含めた全体経費が抑制されることを見込んでいる。 また、ムービングウォークについては、民間からの寄付を募り、整備費に充てることで市のコスト軽減を図る。				
<b>地元の意見などその他特記事項</b>				
平成23年度に「ささしまライブ24まちづくり協議会(現：ささしまライブまちづくり協議会)」、「名駅南地区まちづくり研究会(現：名駅南地区まちづくり協議会)」、「名古屋駅地区街づくり協議会」より地下通路の整備要望が提出されている。				